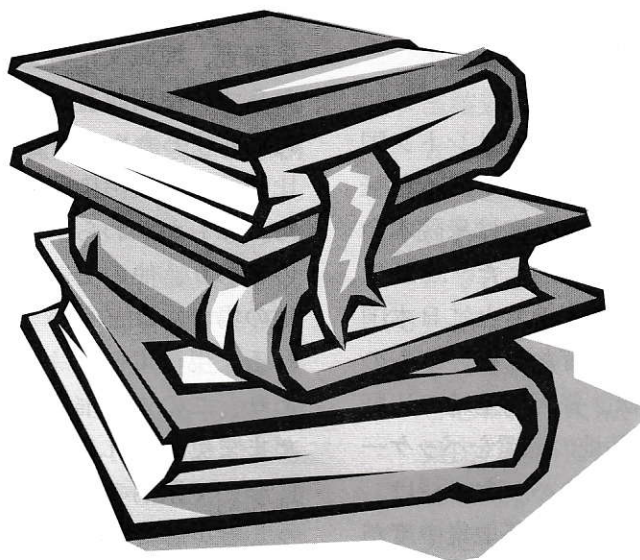


09.6.24

2009年6月20日発行 Vol.40

■おきなわ環境ネット■

沖縄環境ネットワーク通信40号



米軍基地環境問題を巡る最近の動き

… 桜井 国俊

「在沖字井純資料整理・活用プロジェクト」について

… 友澤 悠季

総会資料

《環境情報おきなわ》

米軍基地環境問題を巡る最近の動き

桜井 国俊（沖縄環境ネットワーク世話人）

国土面積0.6%を占めるにすぎない沖縄県には、在日米軍基地の75%が集中している。このことから、沖縄における環境問題の多くは、米軍基地を原因とするもの、あるいは基地受容の見返りとして本土政府から提供される高率補助で実施される公共事業を原因とするものとなっている。ここでは、そのうちの前者、米軍基地環境問題について最近の動きを報告したい。

沖縄に米軍基地を固定するグアム移転協定

2009年2月17日、来日した米国政府クリントン国務長官と中曽根外務大臣は在沖米海兵隊グアム移転協定に調印した。同協定は、4月14日には衆院本会議を通過し、5月中旬にも成立の見通しだ。これは、沖縄の基地負担軽減という錦の御旗のもとに日本国民の税金をつぎ込んで米軍再編を行おうというもので、在沖米海兵隊のグアム移転、普天間基地の辺野古への移転、嘉手納以南の米軍基地の返還をパッケージにしたものである。しかし、このパッケージは、たとえ実現したとしても沖縄への米軍基地集中度が70%を切ることはないという代物である。しかも沖縄でわれわれが現在日々感じているのは、F22（ステルス）の嘉手納基地配備と外来機の増加による昼夜を問わない爆音禍、キャンプハンセンからの流れ弾事故と日米両軍使用、ホワイトビーチ軍港への米原潜の寄港の急増など、むしろ負担増である。そして、沖縄を米軍の永久基地化しようとするこの動きについて、本土（政府のみならずマスコミも国民も）が圧倒的に無関心であることを痛感している。

危惧される汚染まみれの基地の返還、見直しを求められる軍転法

そうした中でまず指摘すべきは、嘉手納以南の米軍基地の返還は汚染まみれの土地の返還を意味し、それに対する備えは出来ていないという事実である。日米安保条約第6条に基づく現行地位協定第4条第1項によれば、基地返還に際して米軍には浄化責任もなければ、土地利用履歴等の情報提供の義務もない。昨年筆者は、北谷町の協力を得て、すでに返還

され浄化作業が進行中のキャンプ桑江（北側）の事例を検討した。この検討から明らかになったことは、現行軍転法（「沖縄県における駐留軍用地の返還に伴う特別措置に関する法律」）が保障する地主への給付金給付期間は、必要な浄化作業をカバーするのに全く不十分だということである。キャンプ桑江（北側）の場合、軍転法で3年、沖縄振興特措法で1年半の間、給付金が支給されたが、4年半では汚染調査、埋蔵文化財包蔵調査、そして現状回復は終わらず、使用収益が生まれる前に給付金支給が途絶えてしまったからである。キャンプ桑江（北側）は比較的に土壤汚染問題の少ない場所と考えられてきた。にもかかわらず現行軍転法では不十分であったのであり、他の更に汚染されていると予測される土地の場合にはどうということになるか、大変に危惧される。現行軍転法は2012年3月末までの時限立法であり、このまま推移すれば、こうした問題点を抱えたまま更新されることになりかねない。このテーマについて県内の世論喚起を進め、早急に見直しを行うことが必要である。

たとえ日米地位協定の改定が無理だとしても

軍転法の見直しとともに必要なのは、2010年で締結後50年を迎えようとしている日米地位協定の改定である。日本政府は、繰り返し改定を求める沖縄の声を、「運用の改善で対処する」として一貫して聞き流してきたが、それは対米従属の姿勢を取り続ける日本政府の沖縄への一方的しわ寄せであった。問題の本質は日本政府の対米従属姿勢にあるということは、米国がイラク政府との間で結んだ地位協定が日米地位協定よりもはるかに対等な内容であるということが雄弁に物語っている。しかし、地位協定改定を求める声は沖縄県民の多数意見であっても、県民が日本国民に占める比率はわずか1%にすぎない。沖縄の声は、無関心を決め込む本土に無視され、封殺されてしまうのである。

従って、日米地位協定の改定については、当面明るい展望を描けない。しかし、国民の血税を使って行われる浄化作業をより効果的効率的に行うために、

米軍に最低限の協力を求めることには国民の支持が得られるはずだ。キャンプ桑江（北側）などの浄化作業から明らかになってきたことは、返還前の事前調査や、米軍からの十分な情報提供がなければ、調査と浄化に膨大な時間と経費がかかるということである。現行地位協定では、汚染者である米軍は免責され、日本政府が血税を使って浄化することとなるので、せめて返還前の事前調査、米軍からの情報提供を得て、時間と経費の節減を図ることが、地権者にとっても、地元自治体にとっても、そして国民全体にとっても不可欠なこととなる。この点で少し前進が見られたのが次に述べる沖縄県生活環境保全条例の制定である。

基地環境問題に踏み込んだ沖縄県生活環境保全条例の制定

沖縄県議会は、2008年11月議会で、沖縄県公害防止条例（昭和51年県条例第2号）の全部を改正し新たに沖縄県生活環境保全条例を制定した。これを受けて仲井真弘多沖縄県知事は、同条令を2008年12月26日付けで公布した。施行日は2009年10月1日である。

この県条例の特色は、従来タブーであった米軍基地環境問題に、ささやかではあるが一步踏み込んだことである。それが可能となったのは、2008年6月8日に実施された沖縄県議選で与野党の勢力地図が12年ぶりに逆転し、野党多数となって県提案の修正を求め、全党一致で修正案を通したためである。県の見解は、米軍基地には国内法は及ばないとの解釈であり、以下に述べる同条令第3条の2の3点も、米軍を規制しようとするもので地位協定第3条第1項に定める米軍の独占的基地管理権に反するとして当初認めようとしなかったものである。

しかし、一読されれば明らかなように、これは基地所在自治体が米軍に対して様々な申し入れを行う権利を記したもので、それにどう答えるかは米軍次第であり、なんら米軍を法的に縛るものではなく、地位協定に反するものではない。その意味で、まことにささやかな一歩である。しかし、この申し入れを繰り返すことで米軍のお行儀を少しずつでも良くさせていくことは、将来の地位協定改定につながるものとなっていくと考えられる。また、申し入れが出来るにもかかわらずそれを行わない自治体に対しては、県民・市民の目が光ることとなり、従って申

し入れは権利であると同時に限りなく義務ともなっていく。

米軍基地環境問題への取組という見出しを持つ同条令第3条の2は、内容を要約すれば次の3点からなる。

- (1) 県は、市町村と連携協力して、米軍基地の管理責任者に対し、公害防止の観点から、米軍基地に起因する航空機騒音等環境問題の軽減のための協定の締結を申し入れることができる。
- (2) 県は、米軍基地の返還に当たって、米軍基地として提供されている土地の再利用を速やかに進めるため、市町村と連携協力して、米軍基地の管理責任者に対し、前項に規定する協定に、当該返還される米軍基地に係る土地の利用履歴と土壌の汚染状況に関する情報について公表する（返還時の情報開示に向けた事前準備作業も含む）旨の条項を盛り込むよう申し入れることができる。
- (3) 県は、1973年に日米合同委員会において合意された合意事項に基づき、米軍基地に起因すると思われる大気、水、土壌の環境の汚染により、県民の健康に係る被害が生じ、又は生ずるおそれがあると認められる場合には、環境の汚染の実態把握及び原因究明のため、米軍基地の管理責任者に対し立入調査を求める。

上記3点はいずれも県民・市民の命・健康・財産を守る責務のある県・市町村の当然の権利であるが、(1)について言えば、嘉手納基地や普天間基地には現に騒音防止協定があるにもかかわらず、「米軍の運用上の必要がある場合はこの限りではない」という但し書きで防止効果は全くないというのが実態である。また(3)についても、1973年合意の存在自体が2003年まで30年間にわたって当事者である県にも県民にも知らされて来なかったという国の許しがたい沖縄無視の姿勢がある。従って、基地環境問題の解決には、これからも粘り強い運動を積み重ねていくことが求められる。

こうした議論をしているところに2009年4月8日に判明したのが米軍キャンプ瑞慶覧からのアスベストを含む廃棄物の県内産廃処理施設への廃棄である。発生源への徹底した立ち入り調査が必要だ。

「在沖宇井純資料整理・活用プロジェクト」について

友澤 悠季（在沖宇井純資料の活用を考える会）

【はじめに】

昨年7月より、沖縄環境ネットワークの創設者である宇井純さんが沖縄にのこされた資料の整理・活用を考えるプロジェクトがはじまりました。2003年の宇井さんの沖縄大学退職以来、仲西美佐子さんが保管してこられた段ボール20箱分に、同じく沖縄大学地域研究所に保管されていた大小さまざまな段ボール82箱分をあわせて、扱いやすいかたちに整え、中身を活かそうという主旨です。

7月から今年1月までの期間で、資料を出し入れ可能な段ボール箱に移し、箱と資料に通し番号をつけて、これに対応した目録を作るところまで終えることができましたが、肝心の活用面についてはまだまだ課題が山積みです。このレポートでは、計画段階から関わった一人という立場で、プロジェクトの経緯と課題をご報告したいと思います。

【整理作業と目録化】

第1回目の作業は7月下旬に行いました。顔合わせの翌日、沖縄大学より段ボールを運びだして恩納村・仲西美佐子さん経営の「ちゅらさ工房」(注1)へ移動しました。もともと保管されていた分は、亜熱帯気候の湿気(カビ)と虫(紙魚・ゴキブリ・ヤモリ?!)による劣化が進みつつありました。急いで新しい段ボール箱に入れ替え、湿気が資料にうつるのを少しでも防ぐため、床に木製すのこを引きました。通し番号を振った段ボールは最終的には89箱になりました。

2回目は8月12日から14日にかけて、仲西さんの「エコビレッジ・マキヨ屋嘉田(やかた)」(注2)をお借りして合宿形式で行い、のべ14人のご参加をいただきました。箱の中の資料に頭から通し番号を振り、それを小さなラベルに書いて資料の端に貼りました。同時に、資料の情報(タイトル、発行年月日、作成者など)をカードに書き取っていきました(のちにこの作業はパソコンでやることになりました)。複数の人が参加してくださったことで、資料を囲んで過去のお話を聞ける場面もあり、単純作業以上の有意義な時間を持てたように思います。

3回目以降の作業は、「NPO沖縄地域環境アセ

ンブリー」(注3)の山崎 新さんをはじめとする、那覇在住の4名の方々に頼りきりでした。毎週、箱を一定数ずつ那覇へ運び、エクセルファイルで作った目録テンプレートに入力して頂きました。

11月には再度、少人数での合宿を行い、データのチェックを経て、12月にいったん完了となりました。プロジェクトの詳しい記録と完成した目録はあわせて冊子にまとめました(注4)。

最後に、これ以上の資料の劣化を防ぐため、木製の棚を作り、暑くなる時期は除湿機をかけることとしました。



合宿での一コマ(資料を囲んで)

【現在の状況】

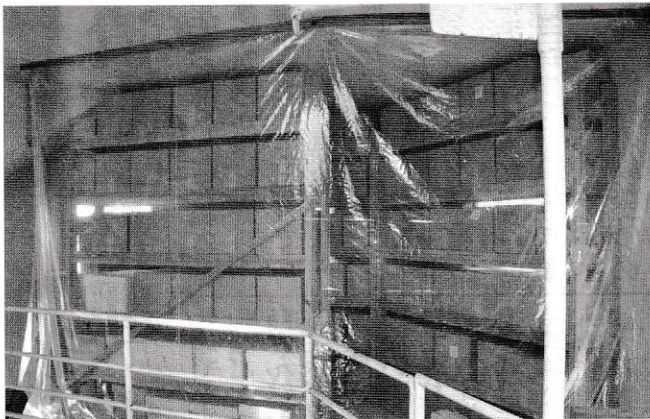
こうした作業によって、「どの資料がどの箱の何番目に入っているか」つまり位置情報が決まりました。目録を眺めて「これが見たい」と思えば、資料番号(ID)を頼りに資料を取り出すことができるようになりました。総じて、段ボール89箱分、3737点分のデータでした(ファイル470冊、スクラップ12冊、その他梱包43包、図書144冊、継続刊行物(雑誌、ミニコミなど)1895冊、冊子・報告書1143冊、抜き刷り30点、地図・図版37冊、手紙9通、バラ資料251点、その他8点)。

保管場所は当面、「ちゅらさ工房」にお願いすることになりますが、私有物ではない、との仲西さんの認識をうけて、プロジェクトに関わったメンバー11人で「在沖宇井純資料の活用を考える会(仮称)」を立ち上げ、資料をめぐるもろもろの意志決定をしていくことになりました。

【今後の運営について】

これからの課題はまず、運営面です。以上の整理作業は、筆者ふくむ5名のグループが受けていたトヨタ財団助成（企画名「1970年代の反公害住民運動が蓄積した資料の整理・活用の道を探る」）による活動の一環という形をとっていたのですが、今後はその資金面での支えがなくなります。保存環境のよくない中で、定期的な防虫剤の入れ替え、除湿機の電気代などの諸費用をどう工面するのか。資料の利用は大歓迎である反面、ふつうの図書館や資料室のように資料のそばに専門家がついているというわけにはいきませんし、コピー機を置ける状態でもありません。

こうした議論は今も進めているところですが、おそらく、従来の「利用者＝お客様／管理者＝サービス提供者」という形式をのりこえて、互いに協力しあうかたちを模索するしかないのでしょう。たとえば定期的な「資料を囲む会」（虫干しを兼ねて？）を開き、利用希望があれば、その場に参加してもらうなどのアイデアが出ている段階です。



現在の「ちゅらさ工房」3階の様子。
棚を取付け除湿機をかけている

【資料を囲んでわいわいと…】

何より大事なのは、この資料をどうやって活かしていくか、です。資料は使われなければ意味がありません。

宇井さんの資料は、1959年の水俣にはじまって日本中・世界中を訪ね、その土地の方々と交流し続けた宇井さんのお仕事の全貌をあらわすように、地域的にもテーマ的にも相当な広がりがあります。それぞれの箱には、雑誌、図書だけでなく、宇井さんが旅先から持ち帰ったり、後日現地から送られたりし

たミニコミ、新聞記事、ビラなどが詰まっています。そこにどんな価値を見出すかは人それぞれ。かつ、文字に残されたものは現実のほんのわずかな部分でしかないという事実も感じます。なので、なるべく資料がたくさんの人目に触れ、意味づけを重ねていけたらすてきなのですが…。

このところは、読者の皆様にもぜひご意見を賜りたいところです。

【おわりに】

たしかなことは、今回整理した資料には、「宇井さん個人の所持した資料」というだけでなく、「1960年代以降の市民・住民運動がたどってきた歴史の記録」という価値があるということです。それは、各地で起きた事件・問題そして抗議の声の存在を伝える重要な証拠です。

こうした資料がだれでも利用可能な状態で整理・保存・公開されている例は、まだ多くないようです。当事者にとっては、事件・問題に対して行動する毎日の中で資料を整理するのはかなり困難がありますし、また一段落していざ整理を始めようとしても、方法や人手、スペース、金銭的な面で壁が生じます。ならば、と専門的な技術と資金を期待できる図書館へ寄贈しようとしてもスペースがない、あるいは図書の形でないので整理が難しいなどの理由で、断られるケースが多いと聞きます。この通信を読まれている皆様にも、同じ問題を抱える方がいらっしゃるのではと想像します。

しかし、小さなつまづきの積み重ねで、資料が散逸し、各地での事件・問題の経験が「なかったこと」にされてしまうとすればやりきれません。一個人としては、このような問題についても、つづけて考えていきたいと思っています。

注1…沖縄環境ネットワーク世話人の仲西美佐子さんが運営している全国でも珍しい個人の石けん工房。廃油を利用した手作り石けんの製作・販売のほか、喫茶スペースもある。

注2…前述の石けん工房も含む複合型のエコ体験施設。宿泊施設、体験工房、家庭菜園のための畑、藍染めスペース等がある。

注3…沖縄大学卒業生によるNPO団体。地域への環境教育やエコツアーの企画、またエコロジカルショップ運営等、活発に活動している。

注4…『1970年代の市民・住民運動が蓄積した資料の整理・活用の道を探る—資料のもつ大体不可能な価値を活かすために』（2009年3月）。ご希望の方にはお送りいたします。

なお価格は設定していませんが、できる範囲で資料の保存・運営費（電気代・防虫剤な

どの消耗品費）へのご支援をお願いしたく、1冊あたり500円前後のカンパを頂けると幸いです。連絡先は以下の通りです。

Eメール：uiproject2008@gmail.com

資料が伝える現場主義

環境運動に取り組んだ故宇井さん



資料の情報をカードに書き込む故宇井純さんの教え子たち＝恩納村



故宇井純さん

宇井さんは水俣病研究や東京大での公開自主講座「公害原論」などで知られる

反公害・環境保護運動に生涯を尽くした沖縄大名誉教授の故宇井純さん（享年74歳）が残した資料を整理し、足跡をたどる作業が教え子たちの手で進められている。絶えず現場を歩いて当事者の声を聞き、反権力、反権威を貫いた宇井さん。段ボール箱に眠る数々の「遺品」に、幅広い視点を持ち続けた師の信念がにじむ。

（上原綾子）

一方、一九八六年から二〇〇三年まで沖大に在任。新石垣空港反対運動のほか、赤土や畜産排水汚染などの環境問題に向き合った。資料の一部を保管していたのは、恩納村の仲西美佐子さん（58）が営む「ちゅらさ石けん工房」だ。段ボ

教え子ら「遺品」整理、実感

ル箱で八十個以上。住民運動などを通じて交流した仲西さんは「何でも知っている生き字引のような人だった。残された資料を無駄にしないよう若い人たちが動いてくれてうれしい」。

十二日から三日間は、合宿形式で作業した。教え子や環境NPO関係者ら約十人が資料に通し番号を付け、カードに概要を記入。国内に限らず、世界各地の環境汚染についてまとめた報告書、住民運動のミニコミ誌、訴訟関連資料…。宇井さんの「守備範囲の広さ」をあらためて実感できる。

兵庫県立太田学院生の三輪大介さん（37）は一九八九年に沖大に入學。クリーンエネルギーとして太陽光発電などの巨大技術が注目された時代に、当時は聞き慣れない「バイオガス」を挙げた恩師の指摘を振り返り、「あのころはとっぴに聞かされた発言が何に裏付けられていたのか、作業を通じて

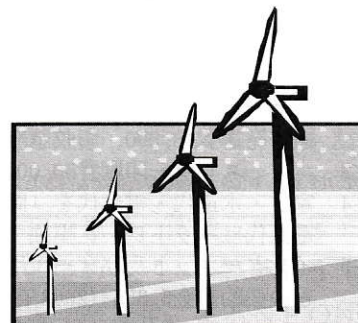
その一端を知ることができるとも楽しめ」と言う。

県外にあった資料の一部は埼玉大に寄贈され、閲覧できる。今回の取り組みには、同大で資料を調べている京都太田学院生の友澤悠季さん（27）も参加。友澤さんらは六〇―七〇年代の公害住民運動の関係資料を整理して活用するためトヨタ財団から助成金を受けており、「今後宇井さんの資料が必要になる人たちが有効に使える環境を整えられ

ば」と願う。

2008年度活動報告

- 4月4日 沖日韓共同米軍基地環境調査シンポジウムの第三回実行委員会に参加
(前年度からの継続)
- 4月12日 沖日韓共同米軍基地環境調査シンポジウム開催
韓国および本土からのシンポジウム参加者と交流会開催
- 6月20日 ネットワーク通信第38号発行
- 10月15日 宇井純追悼集「ある公害・環境学者の足取り」に世話人（真喜志・砂川）
および会員（内海）の原稿が収録される
- 11月4日 「宇井プロジェクト」（現・在沖宇井純資料の活用を考える会）の準備会開催
- 12月2日 県生活環境保全条例案の審議への要望書提出
- 2009年
- 2月5日 ネットワーク通信第39号発行



2008年度一般会計収支報告（暫定）

収 入

前期繰越	－84,933
年会費	727,000
寄付金	788,000
書籍・資料売上	14,000
収入合計	1,444,067

支 出

人件費	765,000	（注1）
通信費	64,920	（注2）
消耗品費	9,840 12,674	
印刷費	63,000	（注3）
振込手数料	26,440	
その他		
・事務所契約関連経費	338,065	（注4）
事務所家賃	240,000	
電気代	12,822	
水道代	5,664	
電話代	79,579	
・プロバイダー契約料	26,145	（注5）
支出合計	1,293,410	

収 支

＋150,657

注1：事務局員人件費（事務局員105,000×3ヶ月＋50,000×9ヶ月）

注2：通信発送費48,000、領収証発送費および冊子郵送料16,320、振替用紙加入者印刷費600

注3：ニューズレター印刷費50,000 なお、通信発送用封筒費13,000も便宜上ここに含む

注4：家賃・水道代・電気代を「岡本由希子事務所」「新沖縄フォーラム刊行会議」事務局と三分割
電話代はネットワーク単独での支払い

注5：インターネット及びメール用プロバイダーとの契約料金20,790、ホームページ用のプロバイダーとの契約料金5,355（2008年4～6月分）

※…この収支は会計監査を受ける前のものですので、暫定となります。

沖縄環境ネットワーク 2009年度事業計画案

事業計画

- 1 畜産排水処理技術（回分式活性汚泥法）の普及のための活動
（マニュアル本の配布および全国へのPR）
- 2 環境影響評価（アセス）法・条例の研究と対策
- 3 内外環境NGOとの交流
- 4 一般市民向けの講演会や公開勉強会の開催
（CBD/COP10に向けた広報等の取組み）
- 5 在沖米軍基地の環境問題の調査とその対策
- 6 エコツーリズム研究
（先進地コスタリカ訪問の成果を踏まえ、再度訪問に向けての学習と準備）
- 7 収益事業の継続拡大
沖縄環境ネットワーク叢書及び「沖縄のエコツーリズムの可能性」等
関連書籍の販売促進、ほか
- 8 ネットを使った情報の発信と共有

2009年度顧問・世話人・監査人・事務局員案

顧 問／

久 場 政 彦
福 地 曠 昭

世 話 人／

桜 井 国 俊	後 藤 哲 志	砂 川 かおり
高 橋 宏 明	真喜志 好 一	大 城 順 子
川 満 昭 広	長 田 英 己	

監 査 人／

内 海 正 三 吉 嶺 繁 子

事務局／（会計担当）

酒井哲哉2009年4～7月

桑江直也2009年8月～

2009年度沖縄環境ネットワーク予算案（一般会計）

収 入

前年度繰越金	+	150,657	
年会費（カンパ含む）	1,300,000		（2008年度実績から算定）
雑収入	30,000		（2008年度実績から算定）
小計	1,480,657		

支 出

事務局費	1,220,000		
人件費	600,000		（事務局員50,000×12ヶ月）
事務局関連経費	350,000		（2008年度実績から算定）
通信費	150,000		（2008年度実績から算定）
印刷費	100,000		（2008年度実績から算定）
消耗品費	20,000		（2008年度実績から算定）
予備費	50,000		
小計	1,270,000		

後期繰越（見込）	+	210,567	
----------	---	---------	--

2009年度沖縄環境ネットワーク総会のご案内

来る6月27日（土）午後5時より、沖縄環境ネットワークの2009年度総会を開催いたします。

総会は年に一度、会員の方たちが集い、ネットワークの活動について意見を述べ合える機会です。通常は世話人会で活動内容を検討・決定しておりますが、会員の方からのご意見を聞ける機会はなかなかありません。

総会では、昨年度の活動報告と収支報告、そして今年度の事業計画案と予算案を検討し今年の活動の大枠を決定いたします。また、今回は総会終了後に、WWF J（世界自然保護基金日本委員会）自然保護室次長の花輪伸一さんをお招きして、来年10月に名古屋で開催される「生物多様性条約第10回目締約国会議（COP10）」についてのお話をさせていただきます。

ぜひ総会にご参加いただき、ご意見・ご提案を賜りますようご案内申し上げます。

日 時／6月27日（土） 午後5時～6時
会 場／沖縄大学本館4階大会議室

内 容／・開会挨拶
・議長選出
・議 事

午後6時30分～8時

講 演／「生物多様性と沖縄の未来（仮題）」

花 輪 伸 一

〈WWF J（世界自然保護基金日本委員会）自然保護室次長〉

お問合せ／沖縄環境ネットワーク事務局

電話・ファクス／098-861-1101

Eメール／netwind@atlas.plala.or.jp

環境情報おきなわ (2009年4月～2009年6月)

■「田中優&マエキタミヤコ」トークライブ

『基地ナシ! 埋立ナシ! 自立できる沖縄づくり! ?』

今、沖縄で大問題となっている、基地やリゾート開発、埋立、ダム建設などによる「自然破壊」と、いつも天秤にかけられる「経済」。これから先もずっと「外」からのお金に頼らないと沖縄は生き続けられないの?

その答えを見つけるためのヒントを「おカネで世界を変える」田中優さんと、「チャタリングに世界を変える」マエキタミヤコさんに聞きます。

【田中優/プロフィール】

1957年東京都生まれ。地域での脱原発やリサイクルの運動を出発点に、環境、経済、平和などの、さまざまなNGO活動に関わる。現在「未来バンク事業組合」理事長、「日本国際ボランティアセンター」「足温ネット」理事、「ap bank」監事、「中間法人天然住宅」共同代表、「天然住宅バンク」代表、「信頼資本一般財団」理事を務める。立教大学大学院、和光大学大学院、大東文化大学非常勤講師。著書(共著含む)に『環境破壊のメカニズム』『日本の電気料はなぜ高い』『どうして郵貯がいけないの』(以上、北斗出版)、『非戦』(幻冬社)ほか多数。

【マエキタミヤコ/プロフィール】

広告メディアクリエイティブ「サステナ」代表。

1994年よりNGOの広告に取り組む。エコ・ライフスタイル・メディア「エココロ」編集主幹。テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」番組内「エココロテレビ」企画監修。「ぬりえピースプラカード」新聞広告など国内外広告賞多数受賞。「100万人のキャンドルナイト」よびかけ人代表幹事、「ほっとけない世界のまずしさ」2005キャンペーン実行委員。最近「フードマイレージキャンペーン」「みんなで発電」「リスペクト・スリーアール」「いきものみつけ」「大地を守る会」のブランディング、戦争を具体的に予防する「HIKESHIプロジェクト」、地方議会を活性化する「みどりの1,000人リッコーホ」も手がける。

日 時

7月24日(金) 18:30開場/19:00開演

(ロビーにて「沖縄大問題」パネル展示あり)

入場料

前売り1,000円/当日1,200円

問い合わせ:「クラブハンズ」098-897-8871

「桜坂劇場」098-860-9555(担当:松浦)

◆【書籍販売】 郵送します

◎『沖縄の環境と平和』1,000円

◎『低周波音公害調査報告書』500円

◎『沖縄から世界へ』1,000円

◎『沖縄からコスタリカへ～平和憲法とエコツーリズムの旅』1,000円

◎『沖縄型・回分式参加溝のすすめ』500円

◎『沖縄のエコツーリズムの可能性』1,000円

事務局(098-861-1101)までお問合せ下さい

◆沖縄環境ネットワーク世話人会 参加自由です!

日 時:お問合せ下さい

場 所:沖縄環境ネットワーク事務所

年会費:個人会員:3,000円 学生会員:1,500円

家族会員:3,000円 団体会員:10,000円

特別賛助会員:100,000円

郵便振込先:(口座番号)02010-9-20132

(加入者名)沖縄環境ネットワーク

◆カンパありがとうございました

今年初めをお願いいたしましたカンパの呼びかけに対し、3月31日現在で511,000円のカンパ金を会員の皆様から頂戴いたしました。ここにご報告申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



■編集後記■

普天間代替基地の辺野古への移設をめぐる動きが正念場を迎えている。杜撰の極みとも言えるような環境影響評価(アセスメント)準備書に対する全国からの意見書は5,300通を超えた。それでも防衛施設局は既成事実を積み重ねようとしている。闘いはこれからも続く。

私事ですが、7月末で事務局の仕事を交替することとなりました。任期の後半は体調不良のため満足な仕事ができず、会員の皆様にもご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。今後は一個人として沖縄の環境問題にこだわっていきたいと思っています。今後とも当ネットワークへのご支援をよろしくお願い申し上げます。(哲)

沖縄環境ネットワーク通信・第40号

2009年6月20発行

発 行 〒900-0015 那覇市久茂地3-29-41

久茂地マンション401号

沖縄環境ネットワーク

TEL/FAX 098-861-1101

E-mail/netwind@atlas.plala.or.jp

発行人 桜井 国俊 編集 酒井 哲哉

http://homepage1.nifty.com/okikan/